

くすりのしおり

注射剤

2022年04月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：ロイコボリン注 3mg

主成分：ホリナートカルシウム水和物 (Calcium folinate hydrate)

剤形：注射剤

シート記載など：



この薬の作用と効果について

この薬自体には抗がん効果はありませんが、細胞の核酸合成を再開させることにより、葉酸代謝拮抗剤であるメトトレキサートの毒性を軽減します。

通常、葉酸代謝拮抗剤の毒性軽減に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・メトトレキサート通常療法、CMF療法、メトトレキサート関節リウマチ療法、M-VAC療法：メトトレキサートによると思われる副作用が出た場合に、通常、6時間間隔で4回筋肉内に注射します。
メトトレキサート・ロイコボリン救援療法：通常、メトトレキサート終了3時間目より3時間間隔で9回静脈内に注射し、以後6時間間隔で8回静脈内または筋肉内に注射します。
- ・メトトレキサート・フルオロウラシル交代療法：通常、メトトレキサート使用後24時間目より6時間間隔で2～6回（メトトレキサート使用後24、30、36、42、48、54時間目）静脈内または筋肉内に注射します。
- ・効果を見ながら使用期間を決めていきます。

生活上の注意

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、発疹、発熱、発赤、血管痛（静脈内注射時）、一過性の疼痛（筋肉内注射時）などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・発疹、呼吸困難、血圧低下（ふらつき） [ショック、アナフィラキシー]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。